

## **Excursion to BSC Water Sports Centre**

4月15日(金) BSCウォータースポーツセンターに遠足に行きました。現地に行く途中雨が何度か降ってきて、天候を心配しましたが、学校を出発したときのような風もなく、結局一度も雨が降らずにカヤック体験ができました。クラス対抗レースでは、進みたい方向に行けず苦労したチームもありましたが、湖岸で「左!左!」「がんばれ!」といった声援をし、チームールはれ!」といった声援をし、チームールはれ!」といった声援をし、チームールはれ!」といった声援をし、チームールはれました。また、最後のクラスがよっていました。また、最後のクラスがよっていました。



クラスレクでは、自己紹介やゲームなどを中心にクラスごとの取り組みが行われました。担任がいなくても自主的に行っていたクラスもあり、感心しました。全て教師に依存するのではなく、自分た

ちが考えて動く主体性は、今後も非常に大切になってきます。

自分ができることを見つけ、お互いの苦 手なところをカバーし合い、行動し、クラ スメートが困っていたら助け合う、よい経 験になったと思います。この活動を通して、 学校では見られない一面も見ることができ たと思います。この活動で発揮した、主体 性、思いやり、協力などの良いことを続け てください。











## 中間考査までの予定

5月6日(金)	服装アクセサリー指導 (~5/9)
5月11日(水)	耳鼻科検診
5月18日(水)	中間考査1日目
5月19日(木)	中間考查2日目
5月20日(金)	中間考查3日目
5月23日(月)	中間考查 4 日目、部活動大掃除

GW を挟むのであっという間に時が流れます。気が付けば中間考査だったとならないように、計画的な準備と取り組みを行いましょう。



## GW の課題

教科	科目	課題内容	提出について	
国語	現代の国語	①「河合隼雄」について調べる。②調べた中で興味を持ったことについて調べる。 整理するためのプリントを配布します。 *567組はプリントに記入すること。内容の充実度で評価します。 *1234組ではノートにしていますが、まだまだ足りません。プリントを利用したり、 ノートに新たに加えて、やり直したりすること。再度評価します。 ③便覧p228~233「現代文重要語彙」を覚えること。中間考査の範囲です。	担当者の指示に従うこと	
	言語文化	「古文アチーブ1」p4~7をやっておくこと。	「言語文化」最初の授業で提出 *担当者の指示に従うこと	
地歴公民	歴史総合	世界地図(白地図)	担当者の指示に従うこと	
	公共	日本地図(白地図)	担当者の指示に従うこと	
数学	数学 I	ますプリを解き進めていく。[直しは途中式も行い、類題が出題されたときに同じミスをしないよう、ポイントや大事な公式もプリント内に記入する。余力のある人は、自主課題にチャレンジ! 教科書の補充問題や、チャート等にも取り組んでおくこと。]	各担当者の指示に従って提出	
	数学A	ますぷり」(集合)[直しは途中式も行い、類題が出題されたときに同じミスをしないよう、ポイントや大事な公式もプリント内に記入する。余力のある人は、自主課題にチャレンジ! 教科書の補充問題や、チャート等にも取り組んでおくこと。]	5月2日(月)朝SHRにて出席番号順に提出 [提出先…1~4組:○○、5~7組:○○]	
理科	科学と人間生活	課題プリント「光について調べよう」 教科書や参考書、インターネットなどを利用して様々な光について調べてみよう。 また、家庭でもできる簡単な実験を行って結果を考察しよう。	課題プリント1枚を、 <u>5月9日(月)の朝のSHR</u> で 回収し、理科係が職員室まで持ってくること。	
	化学基礎	別途指示	担当者の指示に従うこと	
英語	英COM I	<ul> <li>・DataBase 4500のP.14~33(単語番号1~119)の範囲の単語を覚えて 課題に取り組む。</li> <li>・課題プリント3枚[提出]</li> </ul>	課題プリント3枚をホッチキス止めをして、 <u>5月9日(月)の朝のSHR</u> で回収し、英語係が職員室まで持ってくること。	
	論理·表現 I	Vision Quest 論理・表現 I Standard WORKBOOK P.4~I 4の問題を解いて、 赤ペンで答え合わせをする。	GW明けの最初の論理・表現の授業で提出	

- ★ 課題提出は、評価につながる重要な要素です。期限内に提出するのは必須です。提出日を確認し、 当日忘れないようにしましょう。
- ★ 提出の評価として「**主体的に課題に取り組む態度**」が認められるかどうかで評価が変わります。た だ単に課題をこなすだけでなく、主体的に取り組み、それを課題の中にアピールすることも必要 でしょう。